

予算編成過程の公表について（検討メモ）

（１）課 題

20年度本格予算編成過程では、「財政再建プログラム（案）」の策定過程とあわせ、本府としては初めて予算編成過程の公表に取り組んだ。

行政内部のやりとりとして行われていたこれまでの予算編成を、今後府民に開かれたものとするに当たっては、「分かりやすさ」「必要十分な情報提供」「公表手法の適切さ」などが求められる。

また、予算編成は、限られた期間の中で、膨大な情報をもとに、多くの労力を投じて行われており、公表という“手続面”と検討・議論という“実質面”の確保の両立を図る必要がある。

（２）論 点

①資料の“分かりやすさ”を高める

20年度本格予算編成では、財政課から「分かりやすい予算要求書の作成について」（別紙）と題するチェックリストを配布。記載項目以外に改善すべき点はないか。

②必要十分な情報を提供する

21年度当初予算編成から、予算要求書等の内容をHP掲載予定。（20年度本格予算編成では、紙ベースでの開架のみ）限られた紙幅・情報スペースの中に必要十分な情報を盛り込む上での改善点は。

要求書と各部施策に関連するデータ公開との連携が効果的にできないか。（各部HPに各種統計等の施策関係データを日頃から掲載する基準づくりは可能か）

※ 既に取り組中の部局は事例提供にご協力下さい。

その他、行政計画、各種評価など関連情報とのリンク

③適切な公表手法の選択について

HP掲載以外の公表手法——特に、予算議論を生で公開することについて（実務上の課題、対象に関する基準、必要な体制整備、時期、代替手法の有無など）。

（３）今後の予算編成過程の公表について

資 料

・「分かりやすい予算要求書の作成について」（H20.4.15 財第1177号）